

第1 事業の概要

令和6年度は、一般財団法人としての12年目であり、継続事業として「日本学の総合研究・普及」、「日本学に関する講演会・講習会の開催」、「日本学に関する雑誌・図書の刊行」の3事業を実施し、当協会の目的である学術文化の発展に寄与すべく尽力したところである。

第2 事業の実施状況

1 日本学の総合研究・普及(継続事業1)

本事業は、広範かつ多岐にわたる日本学の総合研究を研究者の個人研究、共同研究あるいは研究会を通じて行うとともに、その普及を図るものである。

(1) 研究及び研究会

研究者は、大学教授、高校教諭、評論家などの本会の研究員をはじめ、本会の趣旨に賛同する研究者であるが、専任研究員16名については、各自の研究項目の研究を引続き行ったところである。

研究会については、各地(東京、水戸、岐阜、松山、佐賀)において地域の特性に応じた研究会を行った。

(2) 公開研究会

平成23年度から実施している公開研究会は、「日本学講座」として「日本の発展に尽くした人々」及び「歴史上の重要な事案」をテーマに、下記の通り実施した。

日 時	発表者	演 題
第16回 R6.6.15(土) 14:00~16:00	東洋大学非常勤講師 博士 山本 直人	古代史から見た日本再建 ～聖武天皇の救国・済民～
第17回 R6.9.28(土) 14:00~16:00	回天研究家・全国ソロ モン会理事 久保 慶子	特攻兵器「回天」 ～回天故障事故摘録から～

また岐阜市に於いて第3回目となる日本学講座を令和7年3月30日(日)
(10:00~11:30)「グリフィスの見た日本」と題して(講師 グリフィス研究者 後藤眞生)開催した。

(3) 研究成果の普及

研究成果の論文等は、学術誌『藝林』と機関誌『日本』に発表した。

以上の研究事業の概要は、下記のとおりである。

研究者の学会発表回数：19編	『藝林』発表論文
研究者の論文発表回数：78編	『日本』発表論文

2 日本学に関する講演会・講習会の開催(継続事業2)

本事業は、日本学普及のために行っている講演会、藝林会学術研究大会、講習会の事業である。

(1) 講演会

令和6年度は、日本学協会定例講演会(第19回)を12月7日(土)、靖国会館において「生者と死者、そして伝統」(講師 公益財団法人オイスカ会長 渡辺 利夫)と題して開催した。

また、関西講演会(第22回)は同年9月29日(日)、大阪国民会館において「今、なぜ憲法改正が必要かー風雲急を告げる内外情勢に立ち向かうためにー」と題して(講師 大阪国際大学名誉教授 奥村文男)開催した。

(2) 藝林会学術研究大会

藝林会学術研究大会は、毎年テーマを設けて開催し、記念講演、研究発表等を行っているが、第18回目となる令和6年度は、令和6年11月9日(土)、國學院大學渋谷キャンパス(オンライン併用)にて、「江戸時代における中国古典と『心』と」を主題に開催した。國學院大學教授 石本道明氏より「浅見綱齋と楚辭―朱子学になぜ文学が必要なのか―」と題する基調講演があり、続いて3名による研究報告(金沢工業大学助教 大貫大樹氏「山崎闇齋編『拘幽操』小考―文王の心をめぐりて―」、國學院大學准教授 青木洋司氏「古義学における「心」―仁齋・東涯の所説を中心に―」、早稲田大学先端社会科学研究所研究員 関口直佑氏「後期水戸学に於ける中国古典と「心」―会沢正志斎を中心に―」)が行われた。その後、西岡和彦氏(國學院大學教授)を司会に登壇者を交えて相互討論を行った。(発表論文等は、『藝林』第74巻第1号に掲載した。)

(3) 講習会

講習会は、日本学を高校生や大学生、社会人等の青少年に普及するために実施しているが、令和6年度は「日本と日本人を考える」をテーマに令和6年8月10日(土)～11日(日)の2日間にわたり、大阪市のホテル等を会場に開催した。

(参加者41名)

なお班長研修会を東京事務所で10回(参加者:延べ85名)実施した。

(4) 開催結果

定例講演会	参加者:106名
藝林会学術研究大会	参加者:36名(オンライン参加者を含む)

(5) 広報活動

定例講演会、藝林会学術研究大会の開催は、ホームページを始め月刊誌『日本』

及びチラシ等により、広報を実施した。

3 日本学に関する雑誌・図書の刊行(継続事業3)

本事業は、日本学に関する研究成果の発表並びに普及を図るため、学術誌『藝林』と機関誌『日本』を発行するとともに日本学に関する図書の刊行および出版助成等を行うものである。

(1) 学術誌『藝林』の編集・刊行

『藝林』は、国民の道義を高揚し日本文化を向上させるため、真摯で自由な学問的研究を行うことを目的に設立された藝林会の学術誌である。歴史・文学・思想などの人文系学問の研究成果を発表する場として、会員のみならず広く一般から寄稿された論文を掲載している。令和6年度は、第73巻第1・2号を刊行した。

(2) 機関誌『日本』の編集・刊行

『日本』は、広く日本学を普及するために刊行している月刊誌である。執筆者は、評論家、大学教授をはじめ各界の専門家、有識者等で、内容は政治、経済、歴史、文学など幅広い分野にわたっているが、投稿も掲載している。令和6年度は第74巻第4号～第75巻第3号を刊行した。

販売・頒布は、定期購読者以外にも、有識者への寄贈や学生には購読料を半額とするなどして普及に努めた。

(3) 図書の刊行

ア、図書は、『平泉澄著作集』の電子化刊行の研究と準備を実施した。

イ、『桃李』・『日本』巻頭言集』の刊行準備を実施した。

(4) 研究成果発表関係刊行物

ア 定期刊行物

名 称	頁 数	発 行 部 数	備 考
藝 林	180頁	300部	年2回刊行
日 本	50～58頁	690部	年12回刊行

(5) 広報活動

『藝林』と『日本』の広報は、主としてホームページで実施した。